

藤沢

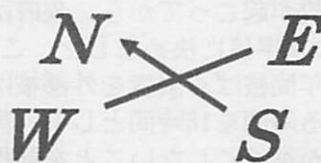
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2013年11月1日

第234号



- 主・PM2.5測定器見学
 な・片山医師講演～今何が起きているの？
 記・藤沢の空気は？
 事・呼気からの内部被曝・放射能測定値

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

今年は11月23日土曜日に、明治公民館で「ふじさわ環境フェア」

今年も暑い夏が過ぎ（夏好きとしてはありがたいですが）、台風が席卷する秋も深まり（24年振りに大波の大会が開催されました）、ひょっとすると紅葉もそこそこに厳しい冬に突入するかもしれません（滑り手としては12月からの雪は欲しいものですが）。

それを異常気象だと騒ぐだけではなく、人類が原因ならば気候変動及び地球温暖化の防止にさらに力を入れ、既に起きている変化と、今後の変化を予測して対応すべく策を練らなければ、右往左往するだけで同じ事を繰り返し、長期的には状況が悪くなる一方です。

目の前の欲に惑わされず、他人任せにせず、自らの判断で行動する機会とすべく、第18回となる「ふじさわ環境フェア」が「自然ある未来へ！藤沢Eco2（エコエコ）まつり」とのタイトルが付き、11月23日土曜日、勤労感謝の日の10時から15時半まで（雨天決行）、会場を辻堂駅北口徒歩5分の明治市民センターと土打公園として開催致します。駐車場がなく、駐輪場も少ないのでぜひ公共交通機関でご来場下さいませ。

10時に土打公園に面した健康プラザの外ステージにて、センターで活動する二つのキッズダンスと市長とのじゃんけん大会のオープニングセレモニーで幕を開け、健康プラザ内では市民団体・企業・大学・行政による環境活動の展示紹介を行い、こねこねせっけん作りやソーラーカー工作などの様々な体験もでき、13時より「ミニ環境クイズ王決定戦！」も開催され、スタンプラリーの抽選会、気温が2度高かった縄文時代、明治の地は海の底だった床地図の展示（故に祖母の娘時代まで沼と砂地が多く人の少ない土地であり、沼に土を打って住めるようになった事から、土打と呼ぶと聞いてます）をします。

市民センター本館では、学習会として2階の第一談話室にて13時より「街をてらす市民と行政の新エネルギー事業・宝塚市の取り組み」の講演、調理室では「キッチンの実験室」と題した体験実験への参加、13時55分からは4階ホールにて「映画・皇帝ペンギン」の上映と美化・リサイクル推進ポスターの入選作の展示をご用意。

土打公園では体験や工作などに地産地消のたべものなどでお待ちしております。

委員長 環境経済NPOパシフィックエコサービス代表
明治地区で生まれ育った青木正美



長久保公園のピラカンサスの実
（市内在住矢板氏撮影）

呼吸からの内部被曝

福島東電原発事故が起こってから、政府はにわかに0.23uSv/hを除染の基準値に決めました。これは1ミリシーベルトという年間被ばく限度を外部被ばくのみで計算し、屋内にいる時間を16時間として、屋内は屋外に居る時の40%しか被ばくしないことを前提に計算した数値です。

木造住宅の我が家は中も外も同じ線量ですので、屋内を屋外の40%で計算したこの数値は到底受け入れることのできない数値ですが、そもそもこの数値が外部被ばくのみで計算されていることは大問題です。

外部被ばくと内部被曝では、人体への影響は後者が甚大であることははっきりしており、決して無視すべきではありません。

また、内部被曝を気にする方々は水や食材には気をつけていますが、内部被曝の割合で一番比重が大きいのは呼吸からの被ばくです。

呼吸からの吸入の割合についてはベラルーシへ研修に行かれた医師や川根先生から、「ベラルーシの医師たちは60%呼吸からだ」と述べている。」と聞いています。

先日横浜で講演くださった高松医師（大阪の小児科医）はWHOの計算を以下のように資料として出されています。WHOはIAEAと協定を結んで被曝による健康被害を過小評価している機関ですが、そこですら吸入から50%とか60%と言っているわけです。

（高松勇医師の横浜での講演会で配布された資料からの引用です。）WHOが推計した事故後1年間の浪江町の甲状腺等価線量について

1歳児	100～200ミリシーベルト	吸入50%
	摂取20% 外部30%	
10歳児	10～100ミリシーベルト	吸入60%
	摂取10% 外部30%	
成人	10～100ミリシーベルト	吸入50%
	摂取10% 外部40%	

私は、個人的には東大の名誉教授の村上周三さんの「住まいと人体、工学的視点から」という論文の「人間は環境化学物質の83%を呼吸から取り込み…」というのが、一番信憑性があるような気がしています。

「放射能の話～生きのびるための基礎知識」というサイトでは1回の呼吸で出入りする空気の数、1日の呼吸回数などから計算して0歳児は72000cm³～3024000cm³を一日で吸い込んでいると計算しています。いずれにしても、汚染地域では、呼吸からの被ばくは防ぎようがありません。

呼吸からの被曝は線量の低い藤沢でも起こりえます。藤沢の衣類からも放射性物質は計測されています。風の強い日などは注意して過ごすようにしたいものです。

須藤百合子

PM2.5 自動測定機見学

藤沢市では9月1日より上記測定機が設置され、運用が始まりました。

早速、環境保全課をお願いして見学、説明をしていただきました。

大気中には様々な粒子が浮遊していますが、工場、自動車から出る粉塵（排気ガス、アスファルトとタイヤの摩擦で出る粉塵等）をSPM（浮遊粒子状物質、粒子径10マイクロメートル以下）と言って喘息などを引き起こす、と言われていています。しかし、最近SPMの中で、より微小なPM2.5（粒径2.5マイクロメートル以下）が問題視されるようになり、肺や循環器への影響が懸念され、環境基準（1日平均が35μg/m³）が決められています。

その正体となりますと一次粒子、二次生成粒子など複雑です。県では調査を開始していますが、早く正体を見つけて、それに対する対策をしてほしいものです。

藤沢市においては市役所旧館裏の測定局に第1号機を設置しましたが、次には自動車交通量の多い、藤沢橋の自動車排気ガス測定局や御所見小学校にある測定局に設置を予定しているとのことです。

測定結果はリアルタイムで市ホームページで見ることができるようですが、この2か月間では、環境基準を超えることはなく安定した状態とのことでひと安心しました。

M子



藤沢の空気はきれい？

6月の一斉NO₂市民測定結果は平均0.035ppm(環境基準は0.04~0.06以内、旧環境基準0.02)となり、現在の環境基準をクリアしました。しかし、用田バス停周辺や大庭トンネルは相変わらず高濃度、しかもぜんそくの改善は見られませんでした。

藤沢市内地区別NO₂測定結果
(ppm)



2012年度藤沢市内小学校ぜんそく罹患率(%)



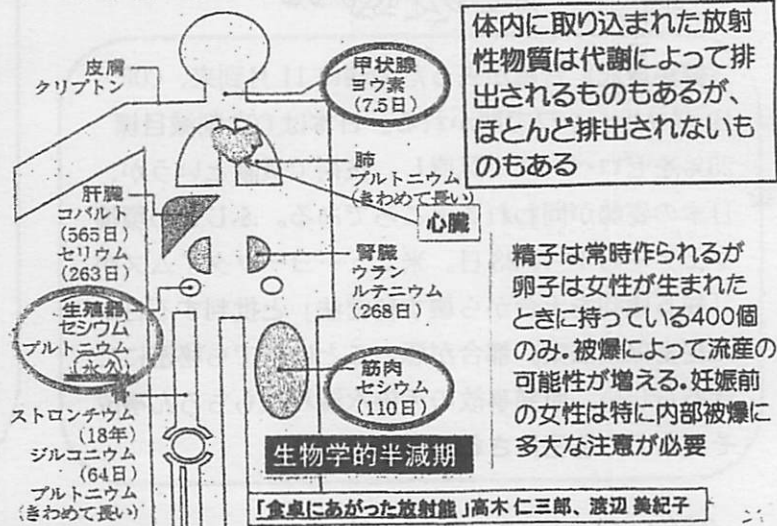
チェルノブイリで、福島で、私たちの町で今何が起きているの？

10月5日、「平和のつどい」が川崎市山内地区センターであり、牛山元美医師(さがみ生協病院内科医師)の講演と、横浜米軍ジェット機墜落事故事件から36年の話もあった。牛山医師は福島県郡山市に行き健康相談活動を毎月行い、県境無き医師団の一員としてチェルノブイリ原発の被害が大きかったベラルーシでも活動されている。

牛山医師は相模原に住んでいるが、福島原発事故の後5月20日に相模原市南区の小学校で地表の砂の放射性物質を測ったところ1360±23Bq/kgの数値であった。同時期に都内目黒区では200Bq/kgで非常に高いのでびっくり。調べてみたら、これは2011年3月15日の日に風にあおられて福島から流れてきた放射性物質によるもので、神奈川県北部方面に達していたことが分かった。今も福島原発周辺では約150μSv/年の放射性物質が放出され、汚染水は海へ流れ込んで魚介類を汚染し続けている。

放射能の性質や身体や細胞に何をするか、ベラルーシでチェルノブイリの事故以後に起きている、甲状腺がんの発生数・死亡率などを話された。

事故後急激に甲状腺がんの発生があったこと、事故当時乳児だった人たちが成長の過程でどの世代でも甲状腺がんを高率に発症していることをグラフで示された。最も認識を新たにしたのは、体内に取り込まれた放射性物質のセシウムやストロンチウムは女性の生殖器において永久に排出されないということ。妊娠前の女性は特に内部被曝に多大な注意が必要という。妊娠5週目頃、胎児の卵巣が作り始められる。妊婦の被曝が胎児である娘だけでなく、さらに孫にも影響を及ぼす可能性があるという指摘。(日比遥)



放射能測定値

食品の測定(市ホームページより)

〈放射能測定器運営協議会測定〉

2012 年度測定結果(国の基準 100Bq/kg 超え)

412件測定し国の基準を越えは3件

いずれも自宅の庭や山で採れたもので市販はされていません。検体の処分は 8000Bq/kg を超えたものは国の基準により一般廃棄物としての処分が可能です。

①市内ローリエ	117.45 Bq/kg
②市内ドクダミ(乾燥)	519.53 Bq/kg
③県外キノコ	851.34 Bq/kg

2013 年度は 131 件(8 月末現在)で3件が基準を越えました。

①市内ドクダミ	118.34 Bq/kg
② 〃	144.08 Bq/kg
③ 〃(乾燥)	131.78 Bq/kg

毎月「わたらい茶」を測定していますが基準以下です。

〈民間検査機関による測定値〉

市内産 放射性セシウム [Bq/kg]

品名	測定日'12 年	数値
①カキ	10/10	9.9未満
②キュウリ	10/7	9.3未満
③ラッカセイ	10/7	10 未満
④ブドウ	8/5	11 未満
⑥ナシ	7/22	9.8未満
⑥コムギ	7/1	10未満
⑦エダマメ	6/24	10未満



《編集後記》台風が去った途端に 11 月到来、COP 19 がワルシャワで開かれる。日本は CO2 削減目標 25%をゼロベースで見直し、技術で貢献というが、日本の姿勢が問われるところである。ふじさわ環境フェアも 11 月 23 日。米ニューヨークタイムズが「知る権利を土台から壊す秘密法」と批判する日本の秘密保護法案。都合が悪いことは何でも秘密にできらしい。原発事故の汚染水漏れはもちろん事故そのものも秘密にされるかも？ (A)

ECONET INFORMATION

第 18 回ふじさわ環境フェア

～自然ある未来へ！藤沢 Eco²まつり～

日 時: 11 月 23 日(土祝) 10:00 から

場 所: 明治市民センター(辻堂駅から 5 分)

◆展示 発表 クイズラリー 包丁研ぎほか

お誘い合わせてご参加ください。主催: 藤沢市

◆街を照らす 市民と行政の新エネルギー事業

宝塚市の取り組み 11 月 23 日(土) 13:00-15:00

主催 藤沢市放射能測定器運営協議会

◆映画「皇帝ペンギン」上映 13:55 から開始

主催「H25 年度藤沢市生活環境連絡協議会市民大会」

講演会「チェルノブイリの現実と福島」

講師 吉田由布子さん(「チェルノブイリ被害調査・救援」

女性ネットワーク事務局長)

11 月 16 日(土) 13:30-辻堂図書館ホール

主催 福島の子どもたちとともに・湘南の会

協賛 藤沢エコネット

学習会「考えよう南海トラフ巨大地震と藤沢」

講師「地震と津波」林弘文(静岡大名名誉教授)

「津波被害」岩淵孝(秋田大学元教授)

11 月 4 日(休・月) 14:00～市民会館第 1 展示ホール

主催/湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

協賛 藤沢エコネット

藤沢エコネットから

訂正とお詫び ニュース 9 月第 232 号の 1 ページの下から 7 行目「飯館村や南相馬は・・・幼い子どもが生活してはいけない場所・・・」を「飯館村や南相馬は・・・本来は幼い子どもが生活してほしくない場所・・・」と訂正致します。

当事者および関係者に深くお詫びいたします。

※今月から一年間、巻頭の写真は市内在住の矢板さんが提供して下さいます

会費・購読料の納入お願い致します

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 737 藤沢エコネット

(従来の振込方法も利用できます)

会員募集＝年会費・購読料→3000 円

事務局会議 11 月 20 日(木) 14:00～

市民活動推進センター